



株式会社ニコン

会社概要

事業内容	光学機械器具の製造・販売
代表者	取締役会長兼CEO 吉田庄一郎
設立	1917(大正6)年7月25日
売上高	3426億2600万円(2003年3月期)
従業員数	5986名(2003年3月)
事業所	本社/東京都千代田区丸の内 製作所/大井(東京都品川区) 横浜(神奈川県) 相模原(神奈川県) 熊谷(埼玉県) 水戸(茨城県) 事業所/インストルメンツカンパニー事業所(神奈川県)

基幹技術

ニコンのコア技術は「光利用技術」と「精密技術」。

この2つの技術を基軸に、デジタル技術、制御技術、情報通信技術など多彩な技術を展開することで、積極的な研究・開発活動を展開しています。

事業領域

ステッパー事業(精機カンパニー)

LSI製造に対するニーズは、年を経るごとに厳しさを増しています。要求される線幅はますます微細化し、それに対応する装置も新たに開発されています。同時に、各種情報機器へ搭載される大量のLSIの量産対応も欠かすことができません。このように、半導体産業は常に激しい技術革新の荒波にさらされています。ニコンは、LSIを生み出すためのマザーマシンともいえるLSI製造装置・ステッパーのトップメーカーとして、超精密技術と光利用技術に磨きをかけながら、半導体産業を陰で支え情報社会の基礎を築いています。また、液晶ディスプレイ用ステッパーもこの事業の大きな柱のひとつです。



縮小投影型露光装置 NSR - S307E

デジタル画像機器・カメラ事業(映像カンパニー)

カメラがますます多彩なものになっています。より高性能、高機能を求めるプロフェッショナルの声にお応えして先進機能を搭載したカメラの開発が進む一方、より使いやすく、親しみやすいカメラを要望する人々の声に応えたカメラも次々に誕生して映像文化の普及に拍車をかけています。ニコンは、これまで築き上げてきたカメラやレンズテクノロジーに加え、最先端のデジタル技術を駆使して多彩なニーズにお応えしています。



デジタルカメラ D2H



光学測定・検査機器事業（インストルメンツカンパニー）

モノづくりの現場では、測定・検査の技術は欠くことができません。測定・検査が高精度であればあるほど、確かな品質の製品が誕生し、広く信頼が得られることになります。ニコンでは超精密加工の代名詞ともいえるLSI製造の現場から、広く機械加工の分野まで高精度の測定・検査機器を提供しています。より高精度を目指す技術がニコンの品質をさらに確かなものにしていきます。



重ね合せ測定機 NRM - 3100

顕微鏡事業（インストルメンツカンパニー）

「多様な専門的用途に向けて最もふさわしい機能をもった顕微鏡は何か」これが顕微鏡開発における大きなテーマのひとつです。例えば、バイオテクノロジーの分野や、情報社会を支えているLSIの製造において、研究や検査のためにそれぞれの用途にあった高性能の顕微鏡が不可欠です。ニコンでは、それらの分野に向けて生物顕微鏡と工業用顕微鏡を開発。最先端のニーズにお応えしています。



研究用正立顕微鏡 ECLIPSE 80i

特注事業（カスタムプロダクツ事業部）

技術革新の勢いはとどまるところを知りません。精度はますます高度化し、様々な製品の性能は驚くほどの勢いで向上しています。ニコンではこうした技術革新に対応し、さまざまなユーザーニーズに、コア技術を生かして対応しています。主に、宇宙関連、天体関連、原子力関連などの特注製品と特注光学部品を扱っています。また、今後は、ナノテクノロジー、光通信などの分野でも積極的に対応していきます。



Astro - F の赤外線望遠鏡

研究活動

創業以来磨き上げてきた「光利用技術」と「精密技術」の2つのコア技術を軸に、デジタル技術や制御技術、情報通信技術など多彩な技術をクロスオーバーさせることで、極的な研究・開発活動を展開しています。

MEMS：微小電気機械システムを創製する技術を意味する。200～1000マイクロメートルの2本の指で構成されるマイクログripperはマイクロサイズの試料を顕微鏡下で観察する際のツールとして利用されている。

全固体紫外レーザ：ニコン独自のアイデアを用いて、高い効率の紫外光を発生させる。従来のエキシマレーザと比べ取り扱いが容易で小型化も可能。幅広い分野への応用が期待。

プラズマCVM：大気圧下で生成したプラズマを利用し、非接触で化学的に加工を行うまったく新しいコンセプトに基づく超精密加工法。加工表面を原子の単位で削り取ることが可能。